

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(1) 職務の理解 (6 時間)			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3	0	<講義内容> 介護保険による居宅サービス 介護保険による施設サービス 介護保険外のサービス 講師による講義の他、視聴覚教材を活用し、理解を深める。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<講義内容> 介護サービスを展開する現場の実際 介護サービスの提供にいたるまでの流れ 介護過程とチームアプローチ 講師による講義の他、視聴覚教材を活用し、理解を深める。 <演習実施方法> 演習手法：「介護職の仕事の内容」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎「職務の理解」 中央法規出版 DVD 教材
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4.5	1	3.5	<講義内容> 人権と尊厳の保持 ICF QOL ノーマライゼーション 虐待防止・身体拘束禁止 <演習実施方法> 演習手法：「人権と尊厳の保持」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。 <通信学習課題の内容> 介護における権利擁護と人権尊重 介護における尊厳の保持の実践 介護職に求められる人間観と生活観 ICF の考え方 QOL の考え方 高齢者虐待への対応 身体拘束 介護保険指定基準において禁止の対象となる行為 障害者虐待の特徴や実態
② 自立に向けた介護	2.5	1	1.5	<講義内容> 自立支援 介護予防 【演習実施方法】 演習手法：「自立支援」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。 <通信学習課題の内容> 介護における自立 自立への意欲と動機づけ 残存能力の活用と重度化の防止 介護予防の考え方 その人らしさの理解 介護予防と介護保険 生活における介護予防の視点
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容> 人権について 人権の取り組みについて 身近な人権について
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「介護における尊厳の保持・自立支援」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(3) 介護の基本 (6 時間)			
指導目標	1、介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解する。 2、介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容> 介護環境の特徴 介護の専門性 介護にかかわる職種 <通信学習課題の内容> チームケアの重要性 根拠のある介護 他職種連携の理解、異なる専門性をもつ職種の理解
② 介護職の職業倫理	1	1	0	<講義内容> 専門職の倫理の意義 介護福祉士の倫理
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2.5	0.5	2	<講義内容> 1、介護における安全の確保 2、事故予防、安全対策 3、感染対策 <通信学習課題の内容> 介護における安全の確保 リスクマネジメントの必要性 事故防止、安全対策の実際 生活の場での感染対策 感染対策の 3 原則
④ 介護職の安全	0.5	0.5	0	<講義内容> 介護職の心身の健康管理 感染予防
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎 「介護の基本」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 (9 時間)			
指導目標	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として、最低限知っておくべき制度の目的・サービス利用の流れ・各専門職の役割や責務について、その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	1.5	1.5	<講義内容> 介護保険制度創設の背景及び目的・動向 介護保険制度のしくみの基礎的理解 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 <通信学習課題の内容> 介護保険制度創設の背景 介護保険制度の基本理念 介護保険制度の概要 保険者と被保険者 保険給付の対象者 保険給付までの流れ 保険給付の種類と内容 制度を支える財源・組織・団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	2	1.5	0.5	<講義内容> 医療行為と介護 訪問看護 施設における看護と介護の役割・連携 リハビリテーション <通信学習課題の内容> 医療行為と原則的に医行為ではない行為 チーム医療
③ 障がい者総合支援制度及びその他制度	4	1	3	<講義内容> 障害者福祉制度の概念 障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 個人の人権を守る制度の概要 <通信学習課題の内容> 障害と障害者の概念 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ 自立支援給付と利用者負担 地域生活支援事業の概念 成年後見制度
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎 「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称： レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(５) 介護におけるコミュニケーション技術 (６ 時間)			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は、一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが、専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきではない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義内容> コミュニケーションの意義・目的・役割 コミュニケーションの技法 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <通信学習課題の内容> コミュニケーションの意義、目的、役割 人間的・効果的なコミュニケーションの基本 メッセージの送り手と受け手 言語的チャンネルと非言語的チャンネル 利用者の思いを把握する、感情に共感する 利用者や家族とのコミュニケーション 家族の心理を理解する 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義内容> 記録における情報の共有化 報告・連絡・相談 コミュニケーションをうながす環境 <演習実施方法> 演習手法：「コミュニケーション」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。 <通信学習課題の内容> 記録の意義や目的と種類 記録の書き方と留意点 記録の保護と管理 報告・連絡・相談の必要性和介護職が果たす役割 報告・連絡・相談の具体的方法と留意点 会議の意義と目的、種類と運用
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第１巻 介護のしごとの基礎 「介護におけるコミュニケーション技術」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(6) 老化の理解 (6 時間)			
指導目標	加齢・老化に伴う、心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<講義内容> 老年期の定義 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 <演習実施方法> 演習手法：「感覚機能の変化」について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。 <通信学習課題の内容> 老化による心理や行動を理解するための視点 生理機能の変化 感覚機能の変化 咀嚼機能・消化機能の変化 循環器の機能の変化 筋、骨、関節の機能の変化 泌尿器の機能の変化
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容> 高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者の疾病と日常生活上の留意点 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 <通信学習課題の内容> 高齢者の疾病と日常生活上の留意点 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護のしごとの基礎 「老化の理解」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解 (6 時間)			
指導目標	介護において、認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1	0.5	<講義内容> 認知症ケアの理念 認知症ケアの視点 <通信学習課題の内容> 認知症の人へかかわる際の基本的なポイント
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	0.5	1	<講義内容> 認知症とは 認知症の診断 認知症の原因疾患とその病態 認知症の治療と予防 <通信学習課題の内容> 脳の機能と認知症 認知症とはなにか 認知症ともの忘れの違い 認知症に類似した状態(せん妄、うつ病) アルツハイマー型認知症
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1.5	0.5	1	<講義内容> 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の人への対応 <通信学習課題の内容> 認知症の中核症状 認知症の BPSD (行動・心理症状) 認知症の人の環境の整備 認知症の人にかかわる際の前提とかかわり方の基本
④ 家族への支援	1.5	1	0.5	<講義内容> 家族への支援 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア <通信学習課題の内容> 介護職が行う認知症の家族への支援 家族への情報提供と助言の方法
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎 「認知症の理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解 (3 時間)			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0	<講義内容> 障害の概念と ICF 障害者福祉の基本理念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.0	0.5	0.5	<講義内容> 身体障害 知的障害 精神障害 発達障害 難病 <通信学習課題の内容> 身体障害 精神障害 (疾患) の理解 発達障害の理解
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1.5	0.5	1.0	<講義内容> 家族の理解と障害の受容支援 家族負担の軽減 <通信学習課題の内容> 家族支援の視点
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護のしごとの基礎 「障害の理解」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (12 時間) ア 基本知識の学習			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2.5	0.5	2	<講義内容> 理論に基づく介護 法的根拠に基づく介護 <通信学習課題の内容> 介護の理論 「介護」の見方・考え方の変化 介護の法的根拠 介護福祉士の定義の歩み
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5	1	4	<講義内容> 学習と記憶に関する基礎知識 感情と意欲に関する基礎知識 自己概念と生きがい 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 <通信学習課題の内容> 記憶のしくみ 意欲のしくみ 要介護状態と高齢者の心理
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.5	1.5	3	<講義内容> 生命の維持・恒常のしくみ 人体の各部の名称と動きに関する 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 <通信学習課題の内容> 生命の維持・恒常のしくみ 骨、関節、筋に関する基礎知識 ボディメカニクスの基本原理 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 自律神経と内部器官に関する基礎知識
(合計時間数)	12	3	9	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第 2 巻 自立に向けた介護の実際「介護に関する基礎的理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。

- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (51 時間) イ 生活支援技術の講義・演習			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	1.5	1.5	0	<講義内容> 生活と家事の理解 ①自立生活を支える家事 ②家事援助のポイント 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①調理 ②洗濯 ③そうじ・ごみ捨て ④衣服の補修・裁縫 ⑤衣服・寝具の衛生管理 ⑥買い物 ⑦家計管理
⑤ 快適な居住環境整備と介護	1.5	1.5	0	<講義内容> 快適な居住環境に関する基礎知識 ①居住環境とは ②安心して快適な生活の場づくり 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 ①生活空間と介護 ②住宅改修 ③福祉用具の活用
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<講義内容> 整容に関する基礎知識 整容の支援技術 ①洗面 ②整髪 ③ひげの手入れ ④爪の手入れ ⑤化粧 ⑥衣服の着脱 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う ①洗面 ②整髪 ⑥衣服の着脱 ※一部介助/全介助/片麻痺/座位/臥床 複数のパターンを組み合わせで行う

⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	14	14	0	<講義内容> 移動・移乗に関する基礎知識 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う 体位変換／仰臥位から側臥位へ 体位変換／起き上がりから端座位へ 体位変換／端座位から立位へ 車いす移乗／ベッドから車椅子への移乗 車いす移乗／車椅子からベッドへの移乗 手すり、歩行器、杖を使用した歩行介助 視覚障害のある方への歩行介助 車いすの点検 車いす走行の介助 ※一部介助/全介助/片麻痺/座位/臥床 複数のパターンを組み合わせで行う
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<講義内容> 食事に関する基礎知識 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 食事と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う とろみの作成 食事の介助（片麻痺/一部介助/座位/臥床） 視覚障害のある人の食事介助（クロックポジション/声掛け） 自助具の活用方法 口腔ケア
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<講義内容> 入浴・清潔保持に関連する基礎知識 入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う 入浴の介助・浴槽出入り（片麻痺/一部介助） 手浴・足浴の介助（座位/臥位） 全身清拭 洗髪
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<講義内容> 排泄に関する基礎知識 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う ポータブルトイレの介助(片麻痺/一部介助) 紙おむつの交換・陰部洗浄（片麻痺/全介助）

⑪ 睡眠に関連したところ とからだのしくみと自立に 向けた介護	3	3	0	<講義内容> 睡眠に関する基礎知識 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う ベッドの使用方法和留意点 ベッドメイキング
⑫ 死にゆく人に関連した ところとからだのしくみと 終末期介護	1	1	0	<講義内容> 終末期に関する基礎知識 ①終末期の介護 ②終末期の変化の特徴 生から死への過程 ①看取りの現状 ②尊厳死 「死」に向き合うところの理解 ①「死」に対するところの変化 ②「死」を受容する段階 ③家族の「死」を受容する段階 苦痛の少ない死への支援 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う 死について
(合計時間数)	51	51	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際「自立に向けた介護の展開」 介護ベッド、車いす、歩行補助杖、ポータブルトイレ、紙おむつ等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299

商号又は名称：レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (12 時間) ウ 生活支援技術演習			
指導目標	生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する。 利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護過程の基礎的理解	2	2	0	<講義内容> 介護過程の目的・意義・展開 ①根拠に基づいた介護の実践 ②介護過程の展開イメージ 介護過程とチームアプローチ ①チームアプローチにおける介護職の役割 <演習実施方法> 演習手法：グループワークを行う ICF に基づくアセスメント表を使用し、情報の整理やどこにどの情報を入れるか等、グループワークにて作成する。 出来上がったアセスメント表に基づいた介護計画を、介護計画書等を用いて展開することで、介護過程の展開を実体験し流れやポイントを理解する。
⑭ 総合生活支援技術演習	10	10	0	<講義内容> 演習を行うにあたって 「食べたくない」と訴える施設入所者の援助 できるだけ外に出かけたいと思っている利用者の援助 トイレでの排泄にこだわりをもつ利用者の援助 介護過程の振り返り <演習実施方法> 演習手法：グループワーク、個別演習を行う ①「食べたくない」と訴える施設入所者の援助 ②できるだけ外に出たいと思っている利用者の援助 ③トイレでの排泄にこだわりを持つ利用者の援助 上記①～③の事例（うち 1～2 事例）をもとに支援の検討、技術演習、実施後の評価までの一連の過程を行う。 グループ毎に改善点・課題を討議し、各グループ発表、最後に講師による講評を行い、理解を深める。
(合計時間数)	12	12	0	
(9 の合計時間数)	75	66	9	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際「生活支援技術演習」 介護ベッド、車いす、歩行補助杖、ポータブルトイレ、紙おむつ等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 299
商号又は名称： レバウエル株式会社

科目番号・科目名	(10) 振り返り (4 時間)			
指導目標	研修の全課程を振り返り、習得した知識・技術について再確認し、継続的な研修が大切であることを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	0	<講義内容> 研修を通じて学んだこと ① 研修を修了して感じたこと、考えたこと ② 学んだことを再確認する <演習内容> 初任者研修全体を通して、新しく学んだこと・再確認できたこと、現在の自分に足りないこと(今後継続して学ぶべきこと)や、今後のキャリアについてグループディスカッションを行う。
③ 就業への備えと研修修了後における事例	1	1	0	<講義内容> 1、継続的な研修が大切 2、介護職のキャリアアップと介護職がめざす「介護」
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際 「研修を終えての振り返り」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。